

# 有明高専だより

第124号

2008.2



2008

2008



## 目次

特集 校長先生にインタビュー……………	2・3	ロボコン・デザコン……………	12
シリーズ 卒業を控えて(5年生・留学生) ……	4・5	プロコン・パソコン甲子園・英語プレゼン……………	13
シリーズ 人物・いま……………	6・7	演算増幅器設計コンテスト……………	13
出前授業・高専シンポジウム……………	8・9	新学生会・冬季球技大会……………	14
シリーズ 研究室訪問……………	10	岱明寮だより……………	15
シリーズ 企業訪問-卒業生を訪ねて……………	11	トピックス・編集後記……………	16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字: 学年、M: 機械工学科、E: 電気工学科、I: 電子情報工学科、C: 物質工学科、A: 建築学科、専: 専攻科 但し、2年生は学年組)

## 尾崎校長先生にインタビュー

6年間校長を務められ、退職を前にされた尾崎校長先生に学生会長の柿原隆宏君(3M)、副会長の石丸大祐君(4M)、上田聖君(4I)がインタビューしました。



尾崎校長先生

**上田**：本校に着任される前はどのような仕事をされていたのですか。

**校長**：九州大学工学部で教授をしていました。

**石丸**：有明高専の印象はどうでしたか、九州大学と比べて何か違いはありましたか。

**校長**：そうですね、先生と学生の距離がとても近く、教育を非常に熱心に行って、

良い教育をしていることですね。最近では大学でも教育も大事というふうで少しは変わってきているようです。

**石丸**：着任された頃と現在とでは学生に対する印象は違いますか。

**校長**：よく接する学生は学生会の役員など限られています。学生はそれほど変わったという印象はないですね。学生会主体のいろいろな学内行事に対する取り組みの熱意はすごいな、と思っています。最近、学生会の仕事で感心しているのは、学生会独自でゴミの分別収集を自発的にやってくれたことで、大変うれしく思いました。着任当初から学生会活動がこれだけきちっとできているから、日常の学生生活においてもある程度自立していいんじゃないの、と主事とは話をしている少しの変化は現れているように感じています。

**柿原**：6年間の高専の校長として一番驚いたことや感動したことは何ですか。

**校長**：学生においては、ロボコンなどでの頑張りは凄いな、と思いました。1週間前を見たのと1週間後ではごろっと変わって、とてもすばらしいものに変更しているのをみると集中力はすごいな、と思いました。学校としては地域連携に力をいれたいと思っていて、たくさんの先生方に協力をいただいたことは嬉しかったですね。

**柿原**：印象に残った高専での行事は何ですか。

**校長**：一番大きいのは体育祭の応援合戦の演舞ですね。みごとに統一されたものにするため、すごい時間をかけているのだな、と思いながら、感心して拝見していました。

**上田**：校長先生として本校の自慢は何でしょうか。

**校長**：そうですね、学生がとても明るいということでしょうか。外部の来校者からも明るい雰囲気、元気があると評価していただいています。また、いくつかの高専を見たけれど有明高専が最もいいな、とおっしゃっていただいたこともあります。

**石丸**：逆に、本校の学生のよくないところは何かありますか。

**校長**：もう少しねばり腰がほしいと思います。わりとあっさりしている気がします。

**石丸**：高専生は英語が弱いと指摘されていますが、高専生の英語力についてどのように認識されていますか。

**校長**：高専生は高校生が行うような入学試験のときに、単語をたくさん覚えるようなことがないけれども、むしろ苦手意識をもっていることがいけないと思います。その気になればできる、と意識するようにしなければいけないと思います。

**上田**：校長先生と接する機会は少ないのですが、普段はどのような仕事をされているのですか。

**校長**：高専全体の運営をどうするのか、その方向性に対して最終決断をしなければならないということですね。もちろん、学科長の先生や主事の先生と話し合いをして意見を聞くけれども、最終的には校長が方向を決断するわけです。

**石丸**：校長先生御自身のモットーは何でしょうか。

**校長**：何事につけても自分で前例をつくらうということでしょう。つまり、自分で考えて良いと思うことを前例があるからといって取り止めにしないで、むしろ自分で前例をどんどんつくって行って、物事を進めていくことです。

**柿原**：校長先生として人をまとめていかなければならないことがいろいろあると思いますが、私のような立場になった今、どういうふうにしたらうまくいくのか、アドバイスをお願いできませんか。

**校長**：結局、人の意見をよく聞くこと、先入観をもたないこと、うまく話し合っていけばどんな人の考えも変えることができると思っています。また、粘り強くやること、あきらめないこと、無理



上田 聖君(4I)

をしないことでしょうか。あんまり強引にやると結果的に実行しないことがあるので、時間をかけて1回で駄目でも2回3回と試みて、少し視点を変えて提案していくと意外にうまくいくこともあります。最初は意図が十分伝わっていないので誤解されることがあるので、辛抱強くやるのが大事でしょう。



柿原 隆宏君(3M)

**石丸**：新しいことに取り組みもうとするとき、どのようなことに気を付けたらよいでしょうか。

**校長**：新しいことをするにはリスクはあるが、起きる可能性があるリスクにどう対応するのか、事前の検討をきちんとしておくことが大切だと思います。

**柿原**：対応を考えていたとしても、想定外のことが起

こった場合はどうでしょうか。

**校長**：想定外の思わぬことが起こって駄目ならば、一旦、撤退することもありうる、それも勇気でしょう。そして、もう一度別の道を探してみる、それぐらいの覚悟がないといけないと思います。

**石丸**：これまでいろいろなことをやってこられたと思いますが、やり残されたことはありませんか。

**校長**：大体のことはやってこれたし、方向性を出すことができたと思います。ただ、学生会活動をもう少し活性化したかったということがやり残したことですかね。一つは、学校が決めている学則の中にはもう少し学生たちで決めることができる部分があるのではないかと思ったこと。もう一つは、文化局の活動が一部を除いて極めて低調なので、活性化しようと思ったことです。そのために4年前に文化クラブのサークル棟の学内コンペをして建築学科の学生からいろいろな提案をいただいたが、実現できなかったことは心残りですね。その代わりというわけではありませんが、文化サークルコーナーを作ったけれどもあまり活用されていないようですね。文化局でしっかりやっているところには重点的に支援したいと思っています。

**石丸**：校長としての6年間で一番きつかったことはどんなことでしょうか。

**校長**：学科の再編を考えている今が一番きついですね。良い方向になるかどうかは5年後か10年後にならないと判らないことでしょうか、他の高専に先駆けて先行して動いています。

**柿原**：これからの高専はどのようになっていかなければならないか、お考えをお教えください。

**校長**：専攻科をもう少し拡充したいと思っています。そのために本科と専攻科の役割をきちんと整理した方が良くと思って、いま検討いただいています。また、本科では基礎をしっかり身に付けさせるために科目を絞って、6時限目で授業が終わってそれ

以降はフリーになるようなことが学修単位をうまく利用すればできるので、そのような方向性も検討していただいています。授業外の時間をつくって学生が有効に利用してもらいたいと思っています。

**柿原**：校長先生が卒業されるくらいの頃の学生会活動はどのようなものでしたか。

**校長**：大学ではちょうど安保闘争のときで、授業をボイコットしてデモ行進をしていました。それが終わった後の学生会活動はものすごく低調でした。

**上田**：校長先生は大学卒業後どのような分野に就職されたのでしょうか。

**校長**：学科を新設していたときだったので、博士課程を修了して、すぐに講師になりました。学生に教える立場になると、自分でわかっていることを学生がわかるように教えることは難しいな、と思いました。

**上田**：学生に対してこうなってほしいということはあるですか。

**校長**：自分で考えて、実行すること、すなわち自立することかな。企業においては指示待ち人間が嫌われていますが、高専卒業生は早い時期から自分で仕事ができるということが評価されています。このことはこれからも続けていってほしいものです。

**石丸**：社会人になるにあたっての心構えを教えてくださいませんか。

**校長**：自分の意思をしっかり持つことでしょうか。人任せではなく、自分で判断することが大事でしょう。自分で決めれば責任をもってやらざるを得ないという状況になります。そして、誇りをもつこと、やればできる、がんばればできるという気持ちをもつことでしょうか。

**石丸**：最後に、学生のうちにやっておいたほうがよいことは何でしょうか。

**校長**：いろいろな経験をすること、積極的に何でも見てやろうと思うこと、好奇心をもつことでしょうか。教務主事がよく言われている好奇心と興味と感動は、おそらくそういうことなのでしょう。

**柿原・石丸・上田**：本日は御多忙の中、お時間をつくっていただいているいろいろなお話をきかせていただき、ありがとうございました。



石丸 大祐君(4M)



# シリーズ 卒業を控えて

卒業を前にした5年生の皆さんに、思い出とこれからの抱負について語っていただきました。

出席者：福山 修平 (5M)、古賀 直樹 (5E)  
前田 貴絵 (5I)、河原 杏子 (5C)  
関 勇輝 (5A、前学生会長)  
司会：森 紳太郎 (1科)



森 紳太郎先生 (1科)

司会：本日は卒業研究などで忙しいところをお集まり頂きありがとうございます。今日は高専での5年間の思い出や卒業してからの目標、後輩へのメッセージなどを伺って行きたいと思います。

まずはじめに皆さんの今後の進路について教えてください。

福山：ソニーセミコンダ

クタ九州に就職します。

古賀：キヤノンに就職します。

前田：森永製菓に就職します。生産管理に興味があります。

河原：神奈川県にある日本映画学校の俳優科に入学します。俳優になることは子供の頃からの夢でした。

関：専攻科に進学します。大学と迷いましたが、取り組んでいる研究が継続できることが決め手になりました。

司会：それでは5年間の高専生活で記憶に残っていることは何でしょうか。

関：学生会活動と体育祭です。5年の体育祭では応援団長を務め、建築学科を背負い、「今年こそは」というプレッシャーの中で大きく成長したと思います。

河原：私は弓道部、国際交流愛好会、茶道部に所属していたので忙しかったのですが楽しかったです。図書館によく通ったのも良い思い出です。それから4年から始まった卒業研究に時間が集中している気がします。

前田：5年間を通じて貴重な体験は、体育祭の応援団と寮生活ですね。女の子だけで集団生活することはそんなにはないと思います。部活の先輩と仲良くできたのも楽しかったです。

古賀：やっぱり応援団ですね。1年、3年、5年と応援団を続けましたが、5年になると責任の大きさを感じました。下の学年を引っ張っていくために協力して頑張りました。

福山：体育祭や部活動です。野球部のキャプテンを



福山 修平君 (5M)

務めましたが、50人という大人数のクラブをまとめる難しさを感じました。

司会：楽しい、充実した高専生活が送れたようですね。勉強の面ではどうでしょう？大変なことも多かったと思いますが。

前田：入学したときはパソコン関係の勉強ばかりをと思っていたので、電気回路や半導体の勉強は大変でしたが一所懸命やって分かってくると楽しかったです。

河原：漫然と授業を受けるのは好きではなかったのですが、習ったことをそのまま用いるのではなくて、どうやって論理的に考えるのかという道筋を学ぶ授業は受けていて良かったと思います。

関：高専の最大の特徴は普通高校に比べて自由が利くところだと思います。

ただ、高専は自分で計画をたてて勉強しなければ行けない。そこで自分自身に勝てるかというところは楽しめたし、苦しみました。

福山：どちらかという軽い気持ちで入学したのですが、自由な雰囲気为学校だったので自分に合っていたと思います。授業で座っている時間よりも実習やエコランなどで機械と向き合うことが楽しかったですね。

古賀：4年のときは試験科目が多くて大変でした。3日間続けて徹夜したことがありますが、朝になると気分が高揚するというか、せっぱ詰まった状態をやり遂げた充実感がありましたね(笑)。

司会：それではこれからの抱負について教えてください。まだ仕事内容も分からないと思いますので、人生の目標や将来の夢でもよいです。

河原：映画学校では高専で過ごした5年間の経験を生かして、映画の世界で活躍できるようになりたいと思います。

前田：進んだ道を「間違った」と考えることもあるかもしれませんが、楽しめれば良いのではないかと思います。仕事でもこれからの人生も、後悔しないように精一杯生きて行ければと思います。

古賀：まだ会社に入って何をやるかは分かっていないのですが、楽しみながら仕事ができるように頑張りたいです。



前田 貴絵さん (5I)



古賀 直樹君 (5E)

福山：就職したら会社には高卒や大卒の人たちがいますが、学歴の壁に負けない高専生のプライドを持っていられば良いと思います。

関：専攻科を卒業したら就職すると思いますが、まだ何をしたいかと言うことは一つに絞れていません。専攻科では実用化に近い研究ができれば良いですね。

司会：それでは最後に、後輩へのメッセージや学校に対するコメントなどをお願いします。

古賀：5年間で悔しい思いもしましたが、その分成長できたと思います。悔しい思いで人間的に強くなるのだと思います。体育祭などのイベントには積極的に参加した方が面白いし、自分のためになると思います。

前田：私は5年間寮生活を続けましたので寮生へ向けて。寮では知らない人といきなり同じ部屋に



関 勇輝君 (5A)

なって生活することになりますが、部活やクラスでは生まれたい連帯感がありました。貴重な体験ですから大切にしてください。

河原：自分が何を考えて何をなすべきかはっきりさせることです。時間は考え方一つで伸びたり縮んだりすると思うので、ぼーっとしてたら5年間は過ぎてしまいます。それから、体育館や建物の呼び名が分かりづらいので、サイズや色などで親しみやすい呼称をつけて下さい（一同笑いながら頷く）。

関：学生会活動の一環で九州学生会交流会に参加して感じたのですが、有明高専は他の高専に比べて教員側と学生会の連携がうまくとれていない部分があるかなと思うことがあります。学生の意見を取り入れて検討してほしいですね。後輩に対しては、何をどうやっても後悔することが出てくる

のですが、それでも純粋に結果を求めていけばそれが楽しいことに繋がっていくと思います。

司会：和やかで楽しい座談会で、何より貴重な意見を聞くことができました。これから皆さんが活躍することを願っています。本日はありがとうございました。



河原 杏子さん (5C)

## 留学生—卒業を控えて—

来る3月17日(月)に卒業を迎える、5Iのドウック君、5Cのアシキンさんに本校での3年間の思い出や、今後の抱負など語ってもらいました。なお、ドウック君は熊本大学へ、アシキンさんは岐阜大学へ進学する予定です。

### —3年間ありがとうございました—



ゲンヴァンドウック (5I)

3年前、東京の日本語学校を卒業した後、私は有明高専に編入しました。最初、私の日本語はまだ上手くはなかったもので、クラスの友達の話が聞き取れない、自分の言いたいことを上手く伝えられない、ということがよくあり、とても不安でした。しかし、次第に高専での生活に慣れて行き、日本語の壁も少しずつ乗り越えて行けました。それは、いつも面倒を見てくれた先生の方々と色々なことを親切に教えてくれた友達のおかげだと思っています。

あっという間に卒業を迎える日がやってきました。この3年間は、私にとってとてもいい経験でした。そして体育祭も、競技大会もロボコン活動もすべて良い思い出になりました。これから私は熊本大学へ編入しますが、また有明高専に遊びに来たいと思います。そのときはまた皆さんよろしくお願いします。

最後に、有明高専の皆さん、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

### —有明高専の皆さんに感謝! 感謝!—



ノール アシキン (5C)

在学中は大変お世話になり、ありがとうございました。私は3年前マレーシアの日本語学校を卒業して、有明高専に編入しました。そのとき、初めて日本に来ました。マレーシアで日本語を勉強しましたが、使う機会がないので、日本語のコミュニケーションはあまりできませんでした。先生と友達がいるいる教えてくださったおかげで、厳しかった在学中は楽しい期間でした。皆さんの暖かい励ましにより、私は最後まで続けることができました。皆さんに心より感謝します。

卒業後、私は岐阜大学へ編入しますが、在学中の思い出を大切にしたいと思います。貴重なアドバイスの数々、本当にありがとうございました。私は大学に入った後、有明高専に遊びに行く機会があるか分かりませんが、今後とも、どうぞよろしくお願いします。

# シリーズ 人物・いま

## 退職教職員

平成20年3月をもって退職される教職員7名の方に、次の3つの質問に答えていただきました。

- Q1 高専で最も思い出に残ることは？
- Q2 高専あるいは学生に望まれることは？
- Q3 今後のことについて一言



機械工学科  
大山 司朗教授

**A1** 卓球部の顧問になってなかなか九州大会での団体優勝ができず、やっと14年目に優勝（団体、個人単・複の完全優勝）することができ、全国大会では、常勝宇部高専に決勝戦で当たり大接戦の末惜敗したが準優勝できたこと。

**A2** 能力を持ちながら、挫折していく学生が多い。ぬるま湯の誘惑に負けず頑張って卒業して欲しい。

モラルに欠けた行動をする学生も多いような気がする。身を律することを心がけ、立派な社会人として巣立って欲しい。

**A3** 卓球、テニス、登山、釣り、女房との旅行etc. 適度な運動と“ぼけ防止”に頭を使うことも少々やって健康を維持して楽しみたい。



物質工学科  
上甲 勲教授

**A1** 4年前、民間企業から本校に転職、その一步を踏み出し、初めて参列した入学式、そのとき吹奏楽部の生演奏の中で入場してくる若者達の姿は自分自身の若き日を思い出し心の高ぶりを感じました。思い出に残っている1コマです。その後に出会った学生たち一人ひとりの個性との触れ合いは甲乙付けがたい思い出です。これからも、さらに楽しい思い出を積み重ねていきたいと思っています。

**A2** 現状に埋没することなく、高専での仕事に情熱をもって自己実現のために取り組んでほしいと思っています。学生は、今でしかできないことの数々に果敢に挑戦してほしい。そして、精一杯青春を謳歌し、たくましく育てほしい。

**A3** 定年！ということで、気分一新、再スタートします。継続勤務しますのでよろしく願いいたします。



一般教育科  
仁田原 元教授

**A1** 心に残る思い出の中に、昭和52年九州地区高専大会での念願の初優勝で、第12回全国高専大会で3位入賞し、その後、男子部は8回、女子部は6回の全国大会出場ができたこと。一人でも多くの学生に、その感動を経験してほしいです。玉磨かざれば器を成さず。

**A2** 今後も更なる教育の改革が予想される、この社会経済の中で有明高専に対する要望は、ますます複雑かつ多様化するであろう地域や他方面からの諸問題等を学生、教職員が一体になり、克服されることで更なる進歩と発展になることを切に祈ります。

**A3** バスケットボールを通じて多くの方に出会い、また お世話になり、それらに対する恩返しのつもりで微力ではありますが、県協会における普及、発展のために努力したいと思っています。また趣味でもある、海釣り、ゴルフに少し時間を使えたらと思っています。



一般教育科  
山下 巖教授

**A1** 思い出に残ることは、特に次の2つが印象的です。「最初で最後の5年生担任での体育祭優勝・3連覇達成」：一般科教員ながら、特別に機械工学科の卒業クラスを担当させてもらい、当時の体育祭で総合優勝・3連覇を成し遂げ、学生諸君とともに感激を味わえたこと。もう一つは、「部活動学生諸君の活躍」：陸上部とバドミントン部で顧問をし、学生諸君とともに全国大会の出場権を得て全国各地を転戦し、5年間の練習成果を結実させ優秀な成績をあげて、学生諸君が力強く成長して行く姿を目の当たりにできたことです。

**A2** 環境（校舎改修）と人材（大学と同等の教員人材）に恵まれている利点を積極的に自分の勉学に活かしてほしい。自己向上心を強く持たなければ、学問への興味は出てきません。専門教科だけでなく専門以外の教科への興味・関心を持ち、先生方への「畏敬の念、感謝の気持ち」を常に持ちながら学んでいくことを望みます。

**A3** 与えられるゆっくりした時の流れに身を任せて、好きなもの探しをする一方で、自分の老化する頭に鞭打って、人文系の教養を深める勉強をやってみようと思っています。



教育研究技術支援センター  
坂口 誠 技術専門職員

**A1** ものづくり40年間、作り続けた、ひとつひとつの製作品にそれぞれの思いがあります。実習、実験、卒研、研究等に使用する大切な品物。教員、学生に事故があってはならないと、特に注意をはらったものです。

体育祭、高専祭、NHKロボットコンテスト、ソーラーボート、エコランなど学生と一緒に頑張ったことは楽しい思い出のひとつです。

**A2** あいさつ。若い元気な人々と毎日笑顔で大きな声であいさつできることが、私に大きなパワーを与えてくれました。これからも良い伝統としてあいさつを続けてください、ステキな笑顔で。

**A3** 日本一周、山登り、各地の温泉、畑づくりをしてきましたが、これからは各地の人々との中身の濃いふれあいを楽しみにゆっくりと廻りたいものです。



教育研究技術支援センター  
山本 俊介さん

**A1** 本校での思い出はいろいろありますが、勤務して1年目の高専大会の夏の日差しが照りつける中での会場設営、2月の入学試験での車の整理など初めてでもあり印象に残る出来事でした。また学科改組等により校舎改修が行なわれ、それに伴い廃棄物の処分や実験室の備品等の移動が大変だったことが思い出されます。

**A2** 学生にとって高専の5年間は長いようですが、あっという間に過ぎていきます。せっかく高専に来たからにはしっかりと勉強し専門的な知識や教養を身につけることが大切ではないでしょうか。もちろん勉強ばかりということではなく色々なことを経験することも必要だと思います。努力した分は必ず報いられるはず。大変でしょうが頑張ってください。

**A3** からだ作りもかねて家庭菜園やウォーキングでもしながら、今後なにをしようかゆっくり考えたいと思います。



学生課  
戸上 清子さん

**A1** 長く勤務しておりましたのでいろんなことがありました。特に図書係ではたくさんの思い出があります。特別貸出のときの忙しかったこと（以前は貸出がものすごく多かったのです）、図書館新館への移転、電算化のためのデータ入力、真夏の暑い中での書庫の整理、美術ギャラリーのオープン、改修のたびの図書の移動等、そしてまた、その時々に関わりのあった人たちの表情やしぐさ、みな懐かしくいい思い出となっています。

**A2** もっと図書館を利用してください。いろんな分野の図書や雑誌が揃っています。多くの本を読んで多くの知識を吸収してください。若いうちに覚えたことはなかなか忘れません。きっと一生の財産になると思います。

**A3** 当分はこれほどとあまり変わらないですね。特に何かを始めるということもないですし…。そのうち折をみて、まだ行ったことがないところをあちこちまわってみたいですね。とくに海外はどこへも行っていないので行ってみたいと思います。

## 人事交流教員あいさつ

昨年度より人事交流教員として赴任された小鉢先生に2年間の感想をうかがいました。



一般教育部  
小鉢 暢夫准教授  
(有明高専→八代高専)

平成18年4月に高専間人事交流教員として、八代高専から有明高専に参りました。あと1ヶ月あまりで交流期間を終えようとしています。思えば、はじめの1年間は、新しい環境に慣れるために、次の2年目は担任という役目を果たすために、あちらこちらにご迷惑をおかけしながら奔走し続けた日々でした。

さて、交流中に強く感じたことは、同じ高専なのにシステムが違うと全く別のものになってしまうことです。この2年間は、本当に久しぶりに初心に戻ったような心持ちでした。今まで慣れ親しんできたものと異なることに触れることは、良い体験となることを実感しました。

また、有明高専において感心したのは、建物のバリアフリー整備、成績処理等を行う"RainbowMagic"なるシステム、そして体育祭へ注がれる学生諸君の情熱等です。これからも学生にとってよりよい教育環境造りを推進されて下さい。

最後に、有明高専の教職員の皆様方には大変よくしていただき、快適な2年間を送ることができました。本当にありがとうございました。

## 永年勤続表彰

永年勤続20年の松川さんに思い出などをお聞きしました。



教育研究技術支援センター  
松川 真也さん

●20年間での一番の思い出 就任して2年目だったと思いますが、当時恒例になっていた熊大の学園祭の一環としてマラソン大会が行われていて、阿蘇火口駐車場から熊大まで約60kmを、深夜0時スタートしゴールするもので、私はすでに夜が明けており6時40分頃でのゴールでした。練習は、昼休みに2、3日程しかやってなかったので、それはそれは地獄でしたね・・・おかげ様で後半から全身痛みがはりだし帰宅するもやっとで、翌日は起き上がることもすら困難で仕事を休んでしまいましたね・・・情けなかったことを思い出しました。

●20年前で自分が変わったところ ヘアスタイルが変わったことと、クシ通りが良くなってしまいましたし、地元がど田舎ですので熊本弁もかなり上達しました。

●これから先の生き方 先々を考えると、不安な要素しか浮かんでこないの、先々の計画は大事ですが目の前の階段を一つひとつクリアしていきたいものです。

●学生に一言 人を思いやる気持ちを大切にしてほしいと思います。

# 出前授業2007 小学生・中学生に科学の楽しさを伝えよう!

## 大牟田市立みなと小学校

ウインドカー



人イクラ



## 大牟田市立笹原小学校

身近な静電気



## 大牟田市立平原小学校

クリップモーター



## 大牟田市立中友小学校

蒸しパン



## 柳川市立皿垣小学校

折り紙建築



8



## 教員教育講座(理科部門)

(於 有明高専)

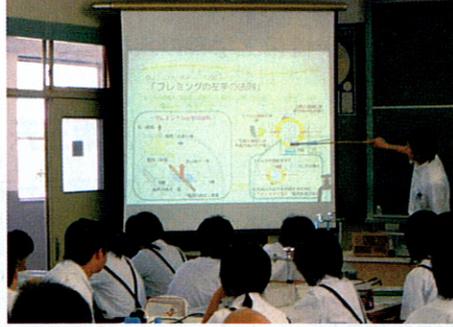


大牟田市立米生中学校

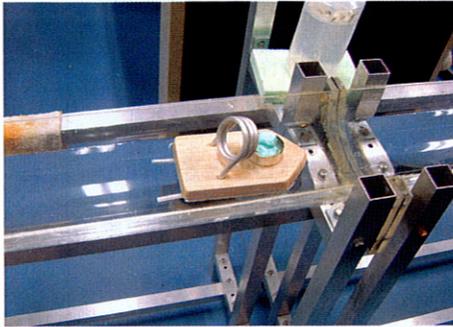
ボンボン船



クリップモーター



ペットボトルロケット



第13回 高専シンポジウムin久留米 福岡県3高専ロボットコンテスト

(於 久留米市石橋文化センター 勤労青少年ホール)



今回は、電気工学科の出来恭一先生と電子情報工学科の八坂三夫先生の研究室を訪ね、お話をお聞きしました。  
(聞き手：E科 森山賀文)

### 出来恭一 研究室 (電気工学科)

現在の研究テーマについてお聞かせください。

固体レーザーの短波長、短パルス化の研究、および非熱的微細レーザー加工の研究を行っています。

その研究を始めたきっかけをお聞かせください。

昔、企業で放電管型の金属蒸気レーザーの開発、商品化に取り組んでいました。金属蒸気圧制御、He圧力制御、放電電流制御、トリガ用高電圧回路などレーザー装置はエレクトロニクスの塊で複雑怪奇でした。それに引き換え、固体レーザー特に半導体レーザー励起固体レーザー装置は非常にシンプルな構成で感銘を受けるとともに、特殊なものを除き気体レーザーは消えていく運命にあると直感しました。

また、結晶一つにレーザー光を照射するだけで、光の色が変わる波長変換に感動し、(短波長への)波長変換の研究を志しました。

また、プラズマテレビのガラスパネル上の生産管理用の2次元バーコードのレーザーによるマーキング装置をメーカからの依頼で世界に先がけて開発したこと、また日本原子力研究所にいた頃、先端のCPUの保護膜のレーザー切断の実験を従来のダイヤモンド刃メーカの依頼で行って成功したこと、などをきっかけに微細レーザー加工が産業界で重要であることを知り研究をはじめました。

今後の研究の方向をお聞かせください。

なるべくオリジナルな手作りの実験器具を用いた、特に半導体産業に役立つレーザー応用の研究に重点をおきたいと思っています。

最後に学生へのアドバイスをお願いします。

(生活面)：fair, share, careの精神、即ちいつも公正であり、他と分かち合い、思いやる心があればどんな世界に飛び込んでも立派にやっています。

(仕事、研究など)：興味がある、好きだと思う事柄は長続きます。そのようなことを仕事、職業にできれば幸せですね。



研究室の学生達と

### 八坂三夫 研究室 (電子情報工学科)

現在の研究テーマについてお聞かせください。

L S I 製造の前工程においては、プラズマを応用した製造装置が基幹部分を担っています。ところが、これら装置のプロセスチャンバ内では、その構成部品の局所部分にプラズマの異常放電(線香花火のような)が発生しています。この異常放電は、突発的に発生し、数10 $\mu$ s程度と短寿命で、エネルギーは小さいものの、ダスト発生、被処理ウェハ表面の損傷、デバイスの絶縁破壊、汚染等を引き起こします。ひとたび異常放電が発生すると、異常放電発生部位を特定し復歸させるのに、ウェハに付着した物質の分析、チャンバ構成部品の調査等を行う必要があるため、L S I 製造現場においては深刻な問題となっています。このプラズマ異常放電の検出に関する研究を産学官連携で行っています。

その研究を始めたきっかけをお聞かせください。

産学官連携のJ S T熊本県地域結集型共同研究事業(H11年~H15年)に参加して、そのテーマのひとつ「プラズマ異常放電監視装置の開発」に取り組んだことです。既存の検出法では不可能な異常放電の発生位置をも標定できる検出方法を開発するものでした。

研究で苦勞したこと、心がけていることをお聞かせください。

研究で苦勞はつき物ですが、産学官連携研究で感じることは、計画に対する時間の取り方、スピードの違い等々でしょうか?企業経験者としては、企業との感覚の違いは大きいように思います。

心がけていることは、研究開発における重要な手法としての「3自+2原」主義です。3自(自分の手で実験し、自分の目で確かめ、自分の頭で考える)を実践し、そこから本質となる2原(原理、原則)を探り出すことですが、このことを卒業研究を通して学生に伝えたいと思っています。

今後の研究の方向をお聞かせください。

今後は、産学官連携のもとに、より高感度な異常放電の検出方法に関する研究を進めるつもりです。

最後に学生へのアドバイスをお願いします。

自分で考え、調べ、課題を発見、解決する力、つまり自分で勉強する方法を学ぶことが最も重要なことです。実社会はこれを求めています。そのことを卒業研究で学んでほしいものです。



研究室の学生達と

# シリーズ 企業訪問 - 卒業生を訪ねて

## 第一紡績株式会社 九州事業所

(熊本県荒尾市増永1850)

今回は、荒尾市にある第一紡績株式会社九州事業所にお勤めの本校卒業生にお話を伺いました。お話をしてくださったのは、植野(旧姓:田中)まゆみさん(I科8期)、吉田翔さん(E科37期)、佐藤(旧姓:伊藤)真弓さん(C科38期)、楯岡秀一さん(C科39期)です。

(取材:C科 永田和美)

**永田:** 仕事内容を教えてください。

**楯岡:** 入社当初は、工場の最終工程である染め揚げた布地に柔軟剤をつけ出荷できるようにする仕上げ工程にいました。現在は、工場の要である編み立てた布地を精練・漂白し、様々な染料を使って染め揚げの染色工程にいます。

**佐藤:** 客先から依頼された色のサンプルを染色する仕事をしています。

**吉田:** 工場の機械の整備と廃水処理施設の管理を担当しています。

**植野:** COBOLやVB等を用いたシステム開発や事業所内のPC及びプリンタのメンテナンス等を行っています。

**永田:** では、高専で学んだことの中で現在役に立っていることは何ですか？

**楯岡:** 氷室先生が言っていた「3K」です。今でも仕事で感動することはたくさんあるし、興味を持って自分から携わっている仕事のことを勉強しないとイケません。勉強することによって工夫するという発想が生まれてくると思います。それに、感動・興味・工夫を心がけることでつらい仕事が楽しくなりました。

**佐藤:** プレゼンの仕方です。卒研で鍛えられたので苦になりませんでした。

**吉田:** 高専時代といえば辛かった定期試験前、レポート提出に苦しんでいた日々を思い出します。しかし、それを乗り越えてきたことでかなりの忍耐力が養われたなと感じます。

**植野:** 答えを出すためにはその過程が大切だということです。いろんな方向からアルゴリズムを考えることでより柔軟な考え方をできるようになりました。

**永田:** 仕事を通じて得られた喜びや仕事に対する誇りを教えてください。

**楯岡:** 染めた布地が縫製され製品として、お店や通販雑誌に載っているのを見かけたときです。それを見るとこの仕事を選んでよかったと思います。

**佐藤:** 私も自分の出した色が商品となって販売されているところを見るとやりがいを感じます。

**吉田:** 故障した機械を直して復旧させ、現場の人から「ありがとう」と言われるのが一番の喜びです。



吉田 翔さん(左上)、楯岡秀一さん(右上)  
植野まゆみさん(左下)、佐藤真弓さん(右下)

**植野:** 自分が構築したシステムが実際に現場で使用されているのを目にしたときは過程の辛さが一気に吹き飛びます。

**永田:** ずばり、学生時代にやっておくべきことは？

**楯岡:** 学生生活を満喫してください!! 体育祭や高専祭などの学校行事、定期試験、部活動など学生のときにしかできないことがたくさんあります。学校で過ごした日々が大切な思い出となっていくので大切にしてください。

**佐藤:** 忍耐力を養うことです。

**吉田:** 自分が一番悔やんでいるのは資格の取得です。学生時代に取れるものは取っておくべきだったと後悔しています。

**植野:** いろんなことに興味を持つことです。すべてを習得しなくても言葉を知っているだけで実際業務に携わるとき入り込み易くなります。

**永田:** 先輩から学生にメッセージをお願いします。

**楯岡:** 気が付けばあっという間に卒業式になっているので一日一日、有意義に目的をきちんと持って過ごすことをお勧めします。

**佐藤:** 学生時代は友達と一緒にいるのが当たり前ですが社会人になるとそうではありません。休みの日に会ったりするととても気晴らしになります。友達を大切にしていってください。

**吉田:** 勉強をするべきときはしっかり勉強をし、遊ぶときは思いっきり遊んで、しっかりメリハリをつけられる人間になってください。

**植野:** 高専生ということで過度の期待を受けることがあるかもしれませんが。それをプレッシャーとせず自分らしく頑張ってください。

**永田:** 各専門からたくさんの有意義な話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

# ★ 回ロボットコンテスト九州沖縄地区大会 ★

## 有明高専Aチーム (不知火)

5 M 大藪 竜太

私は昨年、全国大会に出場した「CENTI-PEDE」の自動マシンを設計し、とても貴重な体験をさせていただきました。

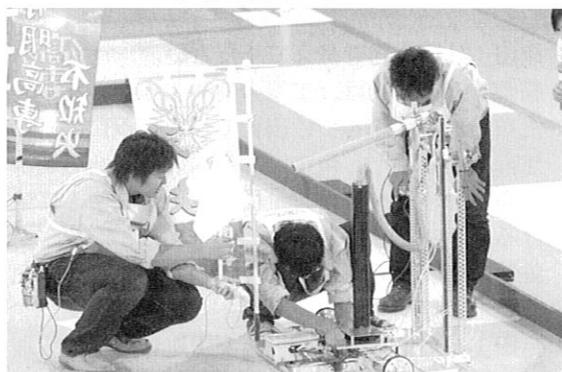
今年は、自分が部長を務めました。頼りない部長にもかかわらず皆がんばってくれました。今回のロボコンは「ロボット騎馬戦」というテーマで、相手の旗を取り合う競技です。例年と違うところは制御関係が変わった所です。初めてのことだったので本当に雲を掴む思いでした。

九州大会は10月21日(日)に行われました。結果は実力を十分に発揮できず1回戦で敗退してしまいましたが、今年は多くのものを得ることができました。来年からは、今年の実験を活かし全国大会に出場して貰いたいです。

応援して下さった多くの方々には、心より感謝いたします。これからも有明高専のロボコンを応援し続けてください。



2007年 有明高専ロボコンチーム



Aチーム 不知火

## 有明高専Bチーム (炭坑武士)

5 M 徳永 誠

今回のロボコンの特徴は、地域をアピールしたのぼり旗の製作でした。私たちは、のぼり旗のデザインを考えるため大牟田・荒尾の炭坑を巡りました。炭鉱資料館や元炭鉱労働者の方々との協力をいただき良いのぼり旗ができました。マシンに炭坑武士と名づけ、デザインにこだわり頭にヘルメット、ヘッドランプやゴーグルを装備し炭坑マンの格好を再現しました。大会ではピットクルーや操縦者全員が炭坑服を着て出場しました。結果は、1回戦で敗れましたが、のぼりのデザインやマシンのアイデアが評価され風林火山賞と安川電機賞をダブル受賞しました。

今年は多くの新しいことに挑戦し、ロボット研究同好会は大きく成長しました。協力して下さった先生方、地域の方々、チームのみんなには大変感謝しています。ありがとうございました。



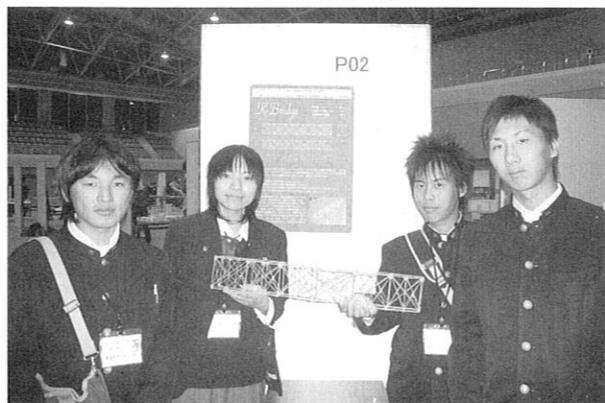
Bチーム 炭坑武士

## デザインコンペティション

3 A 江頭 伸一

私達は、11月16日(金)・17日(土)に山口県周南市で開催された「全国高等専門学校デザインコンペティション 2007 in 周南」の「構造デザインコンペティション」に出場してきました。夏休み中は、課題であるパスタブリッジを何度も製作しては載荷実験を繰り返して、試行錯誤しながら自分達の持つ知識を精一杯使ってパスタブリッジを製作しました。

しかし、大会会場では他高専の作品を見ると、他高専のレベルの高さに驚かされ、自分達の知識のなさを実感しました。それでも、大会用に製作したパスタブリッジは、夏休み中に実施した載荷実験結果をはるかに上回る自己ベスト記録を樹立することができたので、とてもうれしかったです。



大会終了後

入賞はできませんでしたが、このデザインコンペティションで、他高専の学生達と交流がもてたり、他高専の様子を知ることができました。参加して大変良かったと思っています。

# プログラミングコンテスト

## 41 渡辺 優樹

今年の高等専門学校プログラミングコンテスト（高専プロコン）は、10月6日（土）・7日（日）に岡山県津山市で開催されました。高専プロコンには、課題・自由・競技の3部門があり、今年は有明高専からは競技部門のみの本選出場でした。

今回の大会の競技内容は「石垣工務店」という名前の、石に見立てたパズルでした。競技では、はじめに欲しい石をオークション形式で入手し、入手した石を使って決められた形に組み立てていくものです。今回私達は石を組み立てる機能に重点を置いてプログラムを開



コンテストの様子

発しました。

結果は初戦敗退でしたが、他のチームの競技や課題部門・自由部門の作品を見たり、高専プロコンOBの講演を聞いたりして、とてもいい刺激になりました。

# パソコン甲子園

## 31 高田 憲一

今回参加したパソコン甲子園とは、福島県や会津大学などが主催している全国の高校生を対象としたプログラミング部門とデジタルコンテンツ部門を持つ大会で、11月10日（土）・11日（日）に行われました。プログラミング部門は、インターネットの予選で選ばれた25チームが15問の難易度ごとに点数の違う問題を4時間かけて解き、その合計得点で順位を決めます。

実際に参加してみると、選手同士の交流会などがあり、他の学校の人と仲良くなれたりしてとても楽しかったです。難易度的には、予選で25チームに選ばれるだけなら2年生が今からがんばれば難しくは



会場内の様子

ないと思います。とても楽しかったし、自分をアピールする材料の一つになると思うので、2年生はぜひ来年参加してみてください。

# 第1回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

標記大会が1月26日（土）・27日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室で開催されました。この大会は高等専門学校連合会および全国高等専門学校英語教育学会（COCET）共催によるもので、競技部門としてスピーチの部とプレゼンテーションの部があります。この記念すべき第1回大会のスピーチの部で3C佐藤美紀さんが1位となりました。

（G科 安部規子）

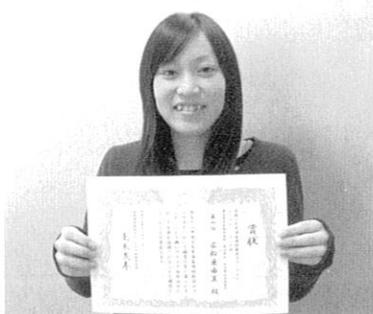


# 演算増幅器設計コンテスト

9月6日（木）～10月5日（金）の期間で開催された「演算増幅器設計コンテスト」に2名の学生が参加しました。このコンテストは、実践的な集積回路設計スキルを競うもので、大半が大学4年～大学院生の参加であり、人材発掘を目的に、大手電機メーカーも多数協賛されています。我々は、高専唯一の参加校としてコンテストに参加しており、本年度初めて、電子情報工学科5年の広松亜由美さんがシミュレーションの部（電源電圧変動除去比・電源電圧・出力電圧範囲部門）で4位入賞を果たしました。

このコンテストを通じて学生自身がアナログ回路設計の面白さを感じ、また、多くの企業に高専生の技術力の高さをアピールできればと思っています。

（I科 石川洋平）



# 新学生会

学生会会長 3M 柿原 隆宏



この度、学生会会長に就任しました3Mの柿原隆宏です。これまでは4年生での就任でしたが、今回3年生での就任ということで不安を抱いていると共に、就任できたことに感謝の気持ちで一杯です。また、皆さんも3年生での就任に対し、不安を抱いてあることと思います。そのような皆さんの不安を少しでも解消していけるように、学生会活動に皆さんの意見を多く取り入れていきたいと思ひます。

話は変わりますが、1年生のときから学生会活動をしてきて、皆さんと学生会役員の間、学生会活動に対する意識の差が感じられるということをよく耳にします。この問題を少しでも解消するために前会長の関さんは、これまで長年の間、開かれていなかった「評議会」を開き、「ゴミ問題」に対して各クラスの代表者との話し合いを通して、全学生の学生会活動への意識の向上を図られてこられました。これからも、皆さんと学生会役員との意識の差を埋められるよう「評議会」を通して引き続き「ゴミ問題」に対して取り組んでいきたいと思ひます。また、皆さんに学生会活動がより浸透するように、まず学生会役員の意識の向上を図りたいと思ひます。学生会役員間での話し合いも、これまでの局長のみでの話し合いから局員全員での話し合いの機会を増やし、ほぼ全クラスにいる学生会役員が中心となって皆さんの意識向上ができればと思ひます。

これから1年間、自分を含め43名の学生会役員一丸となり一生懸命頑張っていきたいと思ひています。一つひとつの活動を活発化させるためには、皆さん一人ひとりの意識と協力が必要不可欠です。どうぞ、これからよろしくお願ひいたします。

## 平成20年度 学生会新役員

会長	▶ 3M	柿原 隆宏			
副会長	▶ 4M	石丸 大祐	4 I	上田 聖	
体育局長	▶ 3A	長嶋龍太郎	2M(2-4)	寺地 一拓	
	▶ 1M	秀山 文彦	1M	福岡 翔太	
放送局長	▶ 3M	杉野麻沙美	3A	白神 知美	
	▶ 3C	枝廣真樹子	2 I (2-3)	植尾 真帆	
	▶ 1C	甲斐田有花			
文化局長	▶ 4E	植尾 友紀	3 E	三好 彩香	
	▶ 2 I (2-1)	大津 昌子	4A	福崎 菜緒子	
	▶ 1 I	井上 優良	1 I	吉丸 哲史	
風紀局長	▶ 3A	小吹 義弘	4M	栗山 正平	
	▶ 4A	吉村 直樹	1C	吉田 晴香	
会計局長	▶ 3A	江頭 伸一	4M	恩田 卓堯	
	▶ 2E(2-3)	山川 考輝	1 E	齊藤 武徳	
	▶ 1A	山崎 春菜			
渉外局長	▶ 3E	今村 泰隆	4 E	小山 琴矢	
	▶ 2A(2-3)	田中 健斗	4 I	古場 友規	
	▶ 1E	乙丸 裕輝			
報道局長	▶ 4A	有吉ゆかり	3 C	江口 翔平	
	▶ 2A(2-5)	弟子丸 愛	4 I	原口 翔伍	
	▶ 4A	吉村 翔	1 A	眞弓 遥	
整備局長	▶ 4M	平野 賢治	2 I (2-4)	吉富 雄一郎	
	▶ 4 I	戸上 貴裕	3 I	石原 慶則	
	▶ 1A	彌富 泰祐			



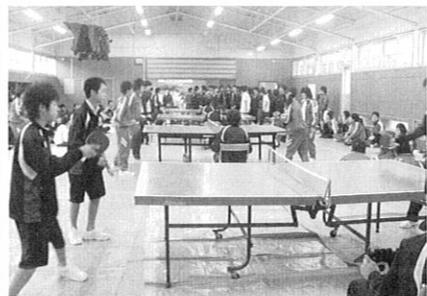
# 冬季球技大会

体育局長 3A 長嶋 龍太郎

昨年12月13日(木)に冬季球技大会が行われました。前日まで雨が降っていたため、今年は雨天時競技でした。一生懸命練習してきたので、とても残念に思ひます。しかし、雨天時競技になったにもかかわらず、5年生を中心に各競技ともとても熱い試合が繰り広げられ、結果的には成功したように思ひます。本当にありがとうございました。今回練習日程表に誤りがあり、みなさんには大変迷惑をかけたと思ひます。次回からは、これらの課題を克服し、球技大会を盛り上げていきたいと思ひますのでご協力よろしくお願ひします。なお、成績は次の通りです。

最優秀クラス	5 E	優秀クラス	5 M
--------	-----	-------	-----

種 目	優 勝	準 優 勝	M V P
バレーボール	5 A	5 E	水城 悠 (5 A)
バスケットボール	専攻科	5 E	江崎 圭佑 (専攻科)
女子バレーボール	4 C	2 - 1	河野真喜子 (4 C)
卓 球	4 M	2 - 2	城 政孝 (4 M)



# 岱明寮だより

## 寮長挨拶



4M 川崎 賢一

こんにちは。岱明寮の寮長となりました4年機械工学科の川崎賢一です。

最近の寮では、1年生への指導が厳しいとのことで、指導の仕方が変わってきています。現在は、「あいさつ」のように、社会に出て必ず必要になることを指導しています。理不尽な指導にならないように最大限の注意を払いますので、ご理解のほど、よろしくお願いします。他にも様々な点で、いい寮をつくるために改善すべき点がたくさんあると思います。できるだけ早く改善すべき点をなおして、住みやすい寮をつくろうと思います。そのためにも寮生会役員全員が一丸となって、頑張っていこうと思います。

## 寮生送別会

岱明寮では5年生の卒寮を祝って、1月27日(日)に恒例の送別行事(予餞会)を実施しました。

予餞会は夕方6時より多くの教職員の方々に参加して頂き、寮食堂で行われました。会は2部構成のプログラムが組まれました。第1部では、尾崎校長先生、寮務主事による5年寮生に対するはなむけの言葉に続いて、寮生会会長の4M川崎君による送辞、5年寮生代表の5A長澤君による答辞が行われました。そして、全員で会食をしながらプロジェクターを使って5年寮生の思い出の写真上映が行われ、岱明寮から5年寮生に記念品が贈られました。

第2部では余興を中心とした進行がなされました。若葉棟、桜棟の1年生と2年生の5グループによる寸劇と卒寮生から在寮生へのスピーチが交互に行われました。寸劇の最優秀グループと最優秀演技賞に賞品が贈られ、参加者全員による万歳三唱で閉会となりました。

5年生の皆さん、卒寮おめでとうございます。岱明寮での生活は皆さんの人生の大きな財産となることでしょう。今後の健康とご活躍を祈念いたします。  
(寮務主事補 下田誠也)



卒寮生によるスピーチ



在寮生による余興

## 寮生会役員

平成20年1月28日現在

寮長 4A 川崎 賢一  
副寮長 4M 井手口 悠人  
副寮長 3A 中尾 嘉克  
副寮長 4E 植尾 友紀

局名	局長	副局長	棟長	若葉棟長(2年生)	若葉棟長(1年生)	桜棟長	桜副棟長
会計	4A 柴田 尚登	2I 竹上 彬	銀杏棟長 4M 三原 徳馬	青葉棟長 3A 高倉 開	4A 片山 卓司	4E 植尾 友紀	4A 有吉ゆかり
整備	3C 大園 啓太	3C 浅野 康之		2A 河田 昂希			3M 杉野麻沙美
報道	4C 渡邊 恭兵	2M 大熊 政寛					
娯楽	4A 吉村 翔	2M 山口 信人					
娯楽委員	2I 植尾 真帆	2I 石山 珠子					
	2A 藤田あやか						
指導寮生	4M 小倉 将人	4A 片山 卓司					
桜棟指導寮生	4E 植尾 友紀	4I 渡邊 恒平					

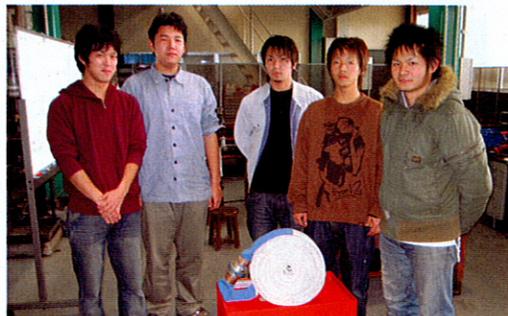
\*棟長・指導寮生は20年3月まで

# トピックス

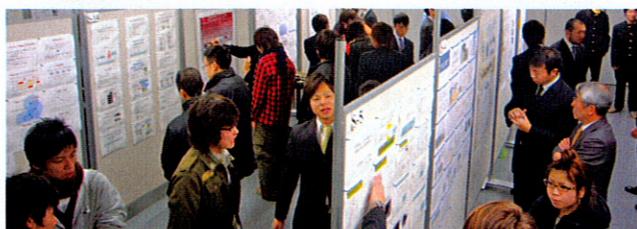
## 消防用ホース巻取り機の開発

大牟田消防署からの技術支援要請に、専攻科生が開発に着手したのが4年前。消火活動等で使用後の消防用ホースは次の出動に備え綺麗に巻かれます。

何本ものホースを誰でも簡単にしかも綺麗に巻き取るための器具開発です。既製品は多くの問題を含み相談を受けました。その試作機が完成し、昨春から半年余り消防署で実際に使用され、署員の現場の意見がまとめられ、再び学生の手に戻りました。すべて改善された最終版が、現在5M学生の手により完成間近です。消防署長も完成した機器を全国へ情報発信したいと熱い期待を寄せています。なお、この一連の活動に対し、このたび、消防署から本校へ感謝状が贈られました。  
(M科 川崎義則)



## 専攻科ポスターセッション



本校専攻科第6期生23名の特別研究の成果を公開する目的で1月10日(木)・11日(金)に、本校総合研究棟2階講義室でポスターセッションを開催しました。期間中は研究内容を紹介するためのポスターを展示し、昼休みと放課後にはポスターの前で、専攻科生自らが地元企業等からの来校者、本校教職員や在校生に対して発表しました。

今回、地元新聞でこの催し物の案内を見て来校された在校生の保護者、受験生の親族の方も来場されていました。

専攻科生は、5年生での卒業研究発表会や学会等の学外での発表をしてきたこともあり、全員自信を持って熱心に説明していました。球技大会と同様、専攻科を本校でPRする良い機会になったと思います。皆さんのこれからの活躍を期待しています。

(専攻科長 宮本信明)



## 吹奏楽部定期演奏会

吹奏楽部部長 4E 高田幸

私達有明高専吹奏楽部は、1月26日(土)に第39回定期演奏会を大牟田文化会館大ホールで行いました。今年は「繋橋(かけはし)」というテーマのもとに、一人でも多くの観客の皆様の心に音楽の楽しさが伝わればと思い、演奏致しました。

このような演奏会を開催できるのも、諸先生方はじめOBの方々やご来場頂いた皆様のお陰と深く感謝しております。

第40回定期演奏会は来年の1月17日(土)に行う予定です。これからも有明高専吹奏楽部を宜しくお願い致します。



## 編集後記

厳しい冬の寒さの中にもわずかに春の訪れが感じられるようになりました。高専生活も節目の時期を迎え、進級や卒業を待ち望んでいる学生も多いことでしょう。高専を卒業するまでの5年間は勉強や部活・課外活動に集中できる人生の中でも貴重な時間です。そういった自分の素養を高めたり、スポーツをしたりする時間は社会に出ると少なくなってしまいます。

在学は今過ごしている時間が、将来の自分にとってどれだけ貴重なものであるかを考えて、毎日を一生懸命過ごしてもらいたいものです。また卒業生には悔いを残さぬように、残された高専生活を精一杯過ごしてもらいたいと思います。

有明高専だより 第124号

平成20年2月20日

編集・有明高専広報室

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

